



「ともに生きる、社会のカタチ」

教育・福祉・子育ての分断を超えていま、知っておきたいこと

れいわ新選組参議院大阪府総支部長

かばた健吾さんに聞く

(聞き手 山田さほ)

山田さほ

今年4月に15歳未満の子どもの数が1366万人と過去最小を記録した一方、全国の小中学校で30日以上欠席した不登校児童生徒数は一昨年34万人と過去最高となりました。多くの自治体が不登校の子どもだけの不登校特例校設置に乗り出しています。なぜとり出すのか疑問です。障害児教育については、国際的な動きの中で、日本でもインクルーシブ教育が少しずつ進みつつありますが、日本は国連から障害児者を学校や社会から分離することは許されないと勧告を受けています。

かばた健吾

分離教育が勧められてきたことで障害者を知らずに生きてきた大人もいます。一人ひとりに合ったサポートをしながら共に過ごす場を保障する仕組みこそが必要です。差別、偏見をなくすためには相手を知っていくことが大事だと思います。

山田さほ

政府が教育にお金を使ってこなかったことが先生の働き方にも影響していると思いますか？

かばた健吾

問題は「現場にリソースが足りていない」ことにあると考えます。教員の負担が増える一方で、人手も予算も追いついておらず、結果として「個別に対応できない」ことが問題です。本来であれば、多様な子どもたちを支えるために、福祉職などが学校に常駐しチームで対応していく体制が必要。教育にもっとお金を使い、「支え合いができる仕組み」

を目指しましょう。そのためには教員を今より1.5倍に増やし、クラスの人数を減らす必要があります。

山田さほ

21年の介護の仕事で見えてきたことはなんでしょうか？

かばた健吾

東日本大震災の時に障害当事者の方と被災地を訪れ、避難所にバリアフリートイレの設置など改善を訴え、障害者への対応が更新されていきました。介護や障害者支援はやりがいのある仕事だと思えますが、あまりにも低賃金で労働環境が過酷。れいわ新選組は介護従事者の給与を月10万円引き上げることを政策として掲げています。介護の現場で働きたい人が増え、福祉の質を高めることができると思います。

山田さほ

ありがとうございます。れいわの政策が生かされれば、教育や福祉の厳しい現場が改善されると意を強くしました。共にならばりましょう！貴重なお話をありがとうございました。



れいわ新選組参議院大阪府総支部長

かばた健吾

大阪生まれ大阪育ちの44歳、4児の子育て奮闘中。PTA会長2期目。高校卒業後に資格を取得し高齢者介護5年、障害者自立生活センター15年以上、現場で働く。「インクルーシブ教育推進」などの活動をはじめ大阪都構想反対にも参加。れいわ新選組の政策に共鳴し2023年大阪市議選に挑戦の後、衆議院議員・大石あきこ事務所でも活動。

Xアカウント新しくなりました！

地域の声を市政に届けるために、日々現場を歩き、学び、動いています。子育て・教育・福祉・環境・インフラなど、豊中市に関わるあらゆる課題に対して、現状や取り組み、議会での発言などをリアルタイムでX(旧Twitter)から発信中！日々の活動をぜひフォローしてご覧ください。ご意見・ご質問もお気軽にどうぞ。



山田さほ 2023年豊中市議会議員選挙で初当選。

所属 建設環境常任委員会・空港問題調査特別委員会

事務所 〒561-0885 大阪府豊中市岡町9-6 GS 岡町101

電話番号 090-2072-4197

メール actionforallkids@sahoyamada.com

詳しくはれいわ新選組公式ホームページで

発行元 れいわ新選組豊中
〒561-8501 豊中市中桜塚3-1-1 電話番号 06-6858-2525 (代表)
※この通信物は政務活動費を使用し発行しています。